

令和2年6月

**適正な水管理・防除で、うまくてきれいな米づくり！**

**1. ゆめみづほの出穂時期は平年並～2日程度遅くなる予想です。**

草丈は平年より長く、茎数は多く、葉数の展開は平年並～2日程度遅くなっています。  
過剰分けつを抑えるため中干を継続し、適正な穂肥施用に努めましょう。

◎早生の出穂期予想 (6月8日時点。平年出穂期 7月18日)

品 種 名	幼穂形成期 (-25)	減数分裂期 (-15~-5)	予 想 出 穂 期
ゆめみづほ	6月23日～25日	7月3日～13日	7月18日～20日

※今後の天候次第で変動することがあります。

<注意>・気象台からは今後気温が高くなる予報が出ていますので、出穂期は早まる可能性があります  
・減数分裂期は低温に最も弱い時期です。17℃以下の低温時は深水にしてください。

**2. 中干しを継続し、無効分けつを抑えよう！**

◎中干し実施期間：ゆめみづほは6月25日頃まで、コシヒカリは7月5日頃まで実施して下さい。

◎中干し後の水管理：常に足跡に水があり、田面が湿った状態を保つ。収穫5日前まで飽水管理を継続！！

砂壤土田などの水持ちの不良な田では、十分に湛水→自然落水→湛水・・・を繰り返す水管理を実施してください。

◎フェーン対策：なるべく前日のうちに入水し、稲の消耗を回避して下さい。

**3. 6月13日(土)～6月21日(日)は一斉除草期間とし、集落ぐるみで草刈を！**

集落ぐるみで農道、畦畔の草刈を実施し、雑草地のカメムシ密度を低下させる。(裏面参照)

遅くとも7月上旬までに除草を実施して下さい。

\*水田畦畔や農道等で刈り倒した雑草が、風や降雨により用排水路や河川に流れ込まないように留意！

**4. 病害虫の適期防除に努めよう！粒剤は散布後7日間の止め水とする！**

病 害 名	薬 剤 名	10a 当たり散布量	散布上の留意点
葉いもち	ブラシン粉剤DL	4 kg	発生が確認されたらただちに散布する。
紋 枯 病 (常発地)	リンバー粒剤	3～4 kg	7月5日までに散布する。 前年発生があった圃場も散布する。

\*補植用の苗は葉いもちの発生源になるため、早急に除去すること。

**5. 早生品種向け一発肥料の追加穂肥の散布について**

◎上乗せ追肥実施

高温登熟が予想される場合、基肥一発肥料 (BB新早生一発くん) を使用した場合でも、上乗せ追肥を実施することにより、後期栄養凋落を防止し、品質・食味を維持しつつ、増収が期待できます。

基肥一発肥料				追加穂肥					
肥料名	N	P	K	肥料名	N	P	K	施肥量 (kg/10a)	投入 N量
BB 新早生一発くん	24	15	8	BB 有機入り いしかわライト550	15	5	10	7	1

※出穂7日前 (7月11日～13日頃) までに施肥してください。

くわしいことは営農指導員にお尋ね下さい

## <穂肥診断のポイント>

(1) 幼穂長から施用時期（基準日）を推定する。

穂肥施用日推定の目安

幼穂長 (mm)	出穂前日数	ゆめみづほ	コシヒカリ・五百万石
		穂肥施用の推定日	穂肥施用の推定日
0.5	-26日	3日後	8日後
1~2	-23日	<u>今日(基準日)</u>	5日後
2~3	-20日	ただちに	2日後
10~15	-18日	ただちに	<u>今日(基準日)</u>

(2) 生育量と葉色で、第1回目の実際の施用時期、施用量を決める。

生育量の目安	葉色	施用日	施用量
条間の田面が奥まで見える。	うすい	1~2日早める	やや多く
	4.0	基準日	やや多く
	濃い	基準日	基準量
条間の田面が手前20~30mくらいまで見える	うすい	基準日	やや多く
	4.0	基準日	基準量
	濃い	基準日	やや少なく
条間の田面が見えない。	うすい	基準日	基準量
	4.0	基準日	やや少なく
	濃い	基準日	少なく

## 【第1回穂肥施用時期の目安（分施体系）】

品種名	幼穂長	基準葉色値
ゆめみづほ	1~2 mm	4.0

※圃場によって生育の差があるので、幼穂長を必ず確認してから施用すること。

◎施肥時期と施肥量

(単位：kg)

品種名	回数	施用時期	10a 当たり基準量		施用上の留意点 (裏面参照)
			BBいしかわライト550	BBいしかわ穂肥一発055	
ゆめみづほ	第1回	6月25日~6月27日 (出穂前23日)	17	27	下記の場合は施用量を減らす。 ①葉色が基準葉色値より濃く、 出来過ぎで葉が乱れている 場合(40本/株以上の場合) ②天候不順が続くと思われる 場合 ※ただし、2回目の穂肥は基準量を 施用
	第2回	7月8日~7月10日 (出穂前10日)	22	—	